

\*\*\*\*\*  
**2011年、新春。**  
**謹んで新春のお喜びを申し上げます。**  
 \*\*\*\*\*

昨年一年、本当にお世話になりました。ありがとうございます。今年もどうぞ宜しくお願い致します。



長期不況からなかなか抜け出ることができない日本経済。

もうちょっとの気がするんですが、何か薄皮一枚を破れないもどかしさがありますね。

昨年を振り返るといくつか嬉しいニュースがありました。

チリ鉱山の落盤事故での救出の時はパソコンの中継を見ながら、『今地球の裏側で実際に救出がされているんだ』と、ドキドキしながら感動していました。

命の尊さと生きることの素晴らしさを再認識する出来事でした。

ワールドカップ南アフリカ大会では、諦めていた日本代表が決勝トーナメントに出ましたね。今年はどうなるか楽しみです。

**【前をみて進もう】**

仕事が進むようにいかないと落ち込んでしまいうような時、自分に言い聞かせるように、これに思い出すようにしています。

『前に進むんだから前を見よう。希望をもって未来の話をしよう』

『苦しかった事、出来なかったことを反省するのはとっても大事だ』

『だけど、前に進むんだから、前を見よう』

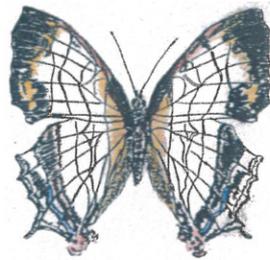
『バックミラーを見るのは時々にして』

『バックミラーに映る過去はどんどん小さくなっていくんだよ』

『後ろばかり見てたらかえって危ないよ』

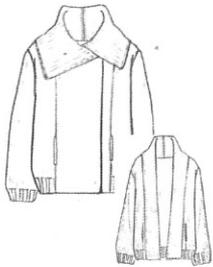
これに思い出すときは、決して順風の時ではありません。だから今、自分に言い聞かせています。2011年の新年に当たって、この言葉をモットーに頑張りたいと思います。

ひよっとすると今は、大きな飛躍のきっかけの時かもしれません。



イシガキチョウ

**UTO カシミア100%**  
**面鞋・フード付きジャケット**  
**No. 17-2148 ¥10,000.+TAX**



ポリウレタンなのに軽い。  
 ファスナーを締めるとフードのようにカジュアルに、はずして(下の絵)のようにも着れます。シーンに合わせて楽しく着回してください。

**カシミア100%・メンズ・ヘチマカラーカーディガン**

**No. 25-2146 ¥85,000.+TAX**



分厚い5ゲージのジャケット。  
 袖と前立てのリブが新鮮です。  
 ヘチマ襟がトラディショナルな大人の品格を演出しています。熟練の職人が一枚一枚編み上げます。

**エアカシミア100%**  
**スヌード(ネックウォーマー)**

**No. 71-1177 ¥14,800.+TAX**



一昨年から展開のスヌードは今年になって大ブレイク。  
 受注会でも大人気。上りが間に合わず上ったら右から左の現状ですが、年が明けても良いので納品してほしいと依頼が多い商品です。

**【南青山界限】**

UTOはこんな街から発信しています

渡谷のスクランブル交差点  
 隠れた、渡谷のビューポイント



毎日の通勤は、中央線の武蔵小金井から乗車し、吉祥寺で乗り換え井の頭線が渡谷に出て、今度地下鉄銀座線まで表参道へ出るというコースです。井の頭線は始発から終点まで座って行けるので実質の乗車時間はそんなに長くはないんですが、乗り換えでかなり時間がかかって、ドア・ツウ・ドアでは一時間半近くかかってしまいうんざりです。

渋谷に着いた井の頭線はマークシティの2階に着きます。ここから地下鉄銀座線へ乗り換える為にエスカレーターで3階に上がります。不思議ですが地下鉄に乗るのに上るのって不思議です。

社会に出て初めての職場が虎ノ門でした。虎ノ門は地下鉄銀座線の駅で新橋と赤坂見附の間にあります。この銀座線は日本で最初に出来た地下鉄で始発が浅草で終点が渋谷です。

初めて地下鉄で渋谷に行った時、渋谷駅に着くちょっと前に地上に出るんですが駅はJR(当時は国鉄)より上の東横百貨店の3階に着いて、ビックリした記憶があります。昔、『地下鉄は何処から入

るの?と考える  
 と夜も眠れない  
 い」と云うギャグがありました  
 が、この銀座線の渋谷は珍しいことに地下鉄なのに3階にある珍しい駅なんです。

乗り換えのマークシティから銀座線へ乗り換える通路から見下ろす左に渋谷の交差点、右がJRへの乗り換え通路で、岡本太郎の大壁画、『明日の神話』があります。

毎朝気が急ぐ通勤で慣れっこになっていて、気にも留めていなかったんですが、年の瀬の休日出勤した時、何気なく立ち止まって通路の下のスクランブル交差点を眺めて、とっても新鮮に感じました。

ニュースなどで『渋谷』と言ったら今眺めている渋谷ハチ公広場とこの交差点の映像に決まっています。その交差点がぼんやり見えるんです。ガラス窓に透らされているので、まるでミュータントのニュース映像を見ている気分です。

信号が変わると凄く数の人々が行きかき、まるで壮大な騎馬戦のようです。人が止まると今度は車が道路いっぱい行き交います。その交差点を見下ろすように周りのビルには消費者金融をはじめ強烈な色の看板や、アイドルの巨大な広告が我こそと主張し合い、また駅に向かいあうビルからは4つもの巨大なスクリーンから一刻も休まず映像が発信されています。

実際に下の交差点に降りると、車の騒音、話し声、靴の音、スクリーンからの音、呼び込みの声。まさに人と車と音の洪水です。これが渋谷のパワーなんですよ。

毎日毎日、普通にくり広げられる喧騒の光景。その喧騒の上を毎日気にもしない、自分も含めて、わき目もふらず電車に乗り換える人、人。

ひよっとするとここは渋谷で一番のビューポイント&観光ポイントかもしれません。

\* ファッション販売員のための ニットの話 \* (三十五)

### 糸のロット違い

何ともならないロット違いを、なんとかしたい

自分のサイズは『M』などと、サイズは知っていても、『自分のセーターは何グラム』と知っている人は少ないと思います。しかし、セーターを作る上では一枚が何グラムあるかはとっても重要な問題です。

通常、レディースのセーターは250グラム、メンズで300グラム前後です。もちろんサイズや着丈などで大きく変わります。12ゲージというのが普通の厚さのセーターですが7ゲージや5ゲージとなるととと重くなります。あくまでも目安です。

ニットを作っているUTOの工場はもちろん、青山のオフィスにも秤が常時備えてあります。ニットメーカーにとっては秤は日常のことです。

なぜ量るかといえば、セーターを編む為の糸を購入する最小の単位が1キログラムだからです。

これはカシミアの糸に限らずウールやコットンなどの素材系も1キロ巻き(コロンと呼んでいます)になって流通しているからです。1キロ千円もしない安価な糸から1キロ何万円もするカシミアまでありますが、1キログラム単位売り売りなんです。

その1キロ、1万円のカシミアの糸を仕入れて編み立てると、前記のレディースのセーターなら4人分。メンズで3人分ぐらいと目安をつけながら仕事をしています。例えばメンズのセーターを同じ色で3着作るとしましょう。そのセーターはちよつと大きめで一着350グラムかかると思います。350グラム×3着は1050グラムが必要になります。この場合は1キロ仕入れても50グラム足りなくなってしまうので2キロの糸を仕入れなければなりません。ガツカリですが50グラムなんて売ってくれません。



見ての通り小さくなるとコロンの形をしています

その時に売る方も買う方も気をつけて必ずチエツクするのが『ロット』です。

ロットとは糸を作った(紡績した)単位とか、ひとくくりのことで、糸には必ずロットナンバーが記載されています。このロットナンバーを合わせないと大変なことになってしまいます。

ウールやコットン糸などは基本的には糸染めにするので、染めた時のロットが重要ですが、カシミアの場合はワタの時点で染めて(トップ染め)紡績しますので紡績した時のロットが最終ロットです。

カシミアのように高価な糸は最低30キロから50キロ、大きくても200キロぐらいで紡績します。このひとまとまりがロットでその中の色の違いはありません。

ロット違いが一番困るのが色違いです。同じ色でもロットが違うと微妙に違うのです。糸(コロン)で比べても全く分からなくて、同じ色だからと油断して途中で違うロットの糸で編んでも人間目は微妙に違うことを見分けてしまうんです。人間の目って凄いです。

1着分300グラムかかるセーターを3着編むとすると、300グラム×3着で900グラムです。この場合は1キロで足りませんが、このコロンの糸で同じロットが終わった時、残りの100グラムを使ってもう一着セーターを編もうとしても使えません。天使のシヨールも1枚120グラムはかかるので編めません。返品もできません(当然です!)ので、配色の一部で使うとか、小物を作るチャンスを待ちますが、小さなコロンがたまってきます。

UTOでは、ロット違いのロス分はコストに載せず、セーターの価格はあくまでもそのセーターにかかる実費で計算しますのでこの残糸をなんとかしてはなりません。最高品質の原料。1キロ、1万円もする糸。ロットが違うことで使えないとはあまりにももったいない。なんとか換金しなければと日々頭を絞ってるんですが...

忙中暇話・ニット屋のたわごと

### (続) ただ今在石中 消えた尿管結石



前回の通信で僕が尿管結石になったことを知って、『実は...』と話し始める人が多く、同病相哀れむでけつこう話しに盛り上がります。尿管結石は、その時はとても苦しいんですが、過ぎるとなるとなれないで色んな経験を皆が明るく語ってくれます。

かかりつけの歯医者さんの本間先生は、小金井カントリーでゴルフのラウンド中に痛みが起こって、とうとう6番ホールまで救急車が入ってきてゴルフ場の中を救急車が走るという前代未聞の大騒ぎになったそうです。

また、東洋紡糸の河野部長は尿管結石との二十年來のお付き合いでの経験や情報を沢聞かせてもらいました。メール配信で、モンゴルのウランバートルで丸紅の建設機械の現地法人の社長をやっている能勢さんから『自分も高生生の頃にやって今でも腎臓に石があって日本に帰るまでおとなしくして欲しい、いつもヒヤヒヤしている』というメールが飛び込んで来ました。

他にも、奥さんが救急車でとか、妹さんがなどと結構身近なんです。暑いさなかの8月、『詳しく調べましょう』と云うことで、青山内科医院の野中先生から紹介とアポイントを取ってもらい日赤医療センターへ。なかなか予約が取れず9月、やっと診てもらいました。診察の前にレントゲンを撮って、検尿に回って。相変わらず大きな病院は時間がかかりますが、検査室に入ると、担当の先生のパソコンに撮ったばかりのレントゲンや尿検査の結果が入っています。便利なんですよ。

『あ、これこれ。あるよ、あるよ、と先生。僕には小さな薄い点にしか見えないけど。それが石だそうなんです。水分を十分摂ってね、出るかもしれないから』と、来月もう一度レントゲンを撮ってみたいよ』と、第一回は早々に退散です。一ヶ月後、またレントゲンを撮って診察。『まだあるねえ』。来月CTを撮って詳しくみてみたいよ』ひよつとするとその間に出るかもしれないまた翌月の予約して終わる。

十一月、CTを撮って数日後に診察。『あれえ、無いよ!』『出た実感はなかった?』トイレに行くたびに意識していましたが、自分では全く出た実感はありません。あんなに僕を苦しめた石が、自覚も無いうちに排泄されるとは信じられませんが、不思議です。ただ、妹が送ってくれた裏白程の煎じ茶を毎日カミさんが作ってくれて飲んでいました。いくらなんでもそれで石が無くなると思えません...

とにかく結石が消えて無くなったことで一安心。尿管結石騒動はなんともあつけない終わりました。カミさんは煎じ茶で結石が無くなったと思ってるらしく、いまだに飲めと作ってくれます。こっちは『喉元過ぎれば熱忘れ』でそろそろ勘弁です。

世界のホテルを旅する (三十五)

元 旅行屋のお勧め フュッセン・ドイツ

### ホテル ゾンネ

ノイシュヴァンシュタイン城は、『お伽の国のお城』の表現がぴったりですが、中学生の頃に初めて写真でみた時『本当にこんなお城があるんだろうか?あるとしたらどこにあるんだろう?是非自分の目で見てみたい』と長い間思っていました。そんな疑問や好奇心が旅行屋になるきっかけのひとつだったと思います。



二のお城、ドイツ、バイエルン州の南部、オーストリアとの国境近くのフッセンという街の近くにありませう。フランクフルトの近くのヴィルツブルグからフッセンまでロマンチック街道と呼ばれる街道があります。ローテンブルグを初めノルリンゲンとがティンケルスビルというた中世の面影を残す城郭都市など、珠玉の街があります。ロマンチックの名前の由来にはこのノイシュヴァンシュタイン城が貢献していることは間違いないでしょう。

1975年に長年の夢が叶って訪れたノイシュヴァンシュタイン城は期待通り可愛なお城でした。特に印象が深かったのがロープウェイに乗って遠望のノイシュヴァンシュタイン城の後ろの緑の山々2つの湖が美しかったことです。長年恋慕がれた人に出会えた喜びがありました。

このノイシュヴァンシュタインだけが目的というよりほかの知識が全くなくフッセンを訪れたんですが、すぐ近くにあったワイースの教会が思いがけない収穫でした。緑の牧草地の中に建つワイース教会の外観は、一見普通の教会のようでした。この教会はヨーロッパではロココ調の代表的な内装で、今では世界遺産に登録されているほど有名な教会ですが、当時予備知識のないまま訪れた私は驚いたというよりカルチャーショックです。

隙間無く施された細かな彫刻それがキラキラに輝いています。詫び寂びの世界に生きる日本人にとって豪華を通り越して圧倒され気が休まらない空間で、『洋の東西とはこんなに違うものか?と実感した記憶があります。また、あまり期待していなかったフッセンの街も印象的でした。ドイッアルプスの麓に位置し三角屋根が並ぶ空気が清々しい街で、街はずれの湖で夏の暮れなずむ湖畔を散歩していると高原のリゾートにいるよう素敵でした。

三角屋根のホテル ゾンネの窓からフッセンの街の石畳の通りを眺めながら、思ったことがあります。目的のノイシュヴァンシュタイン城はもちろんよかったです。この日訪れたワイース教会や、高原のように清々しいフッセンの街、山の空気、人々のざわめき、街の匂い等々。日本での予備知識や映像などの情報だけでなく、実際に訪れて、自分の身を置いて初めて理解出来た。五感で感じた。実感することの大切さと旅の素晴らしさ。

旅って良いなあ。旅行屋になって良かったなあ...、とつくづく実感したホテルでした。うと